

# やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Zebra, Botswana (Wikimedia Commons より)

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.19

## ～当会が20周年を迎えました～

2004年10月2日、鶴岡市の出羽庄内国際村において設立総会が開催され、当会が産声を上げました。JICAボランティア事業を支援する同種の組織としては全国で37番目、東北6県では最も遅れてのスタート。「“地球”という家に住む家族の一員として、国境を越え、世界の仲間と手を取り合いながら、自らの行動を通して世界の平和を築いていきたい」との願いを込めて、【協力隊を支援するやまがた地球家族の会】と命名しました。

本年、おかげさまで20周年という節目の年を迎えることができました。コロナ禍を経て、求められる支援の形は大きく姿を変えています。改めて初心に立ち返り、JICAボランティアへの理解を促進し、草の根レベルの支援の輪を広げ、地域性を生かした活動を展開していく所存です。皆様からの変わらぬご支援とご協力を、宜しく申し上げます。

(写真)

↑2004年設立総会の様子

←総会后、各国の料理を囲み盛り上がったレセプション



## 国際交流の輪が広がる♪ ワールドバザールに出展



2023年6月、総会会場など様々な面でお世話になっている出羽庄内国際村の看板行事「ワールドバザール」に、JICAおよびJOCA東北と連携して出展しました。多くの協力隊OVの皆さんからご協力頂いたことに感謝申し上げます。ワールドバザールは、全国でも稀有な国際交流イベントとの評価を受けています。

(④頁へつづく)



## 隊員の熱意をカタチに！ 小さなハートプロジェクトで応援

協力隊員が現地で暮らす中で、隊員としての業務以外に住民の生活改善・向上に役立つ取り組みが見えてくる場合があります。そんな時に活用できる制度が【小さなハートプロジェクト】です。



2010年3月、ベナン共和国に村落開発普及員として派遣されていた本県出身隊員の申請に応える形で、当会から20万円、山形青年海外協力協会と個人からの10万円を合わせて約30万円を支援しました。まだクラウドファンディングなどの資金調達手法が普及していない当時、協力隊員の熱意と努力、地元住民の協力も

あって《女性のためのお店と会議室》建設を実現することができました。



本県出身隊員によるプロジェクトは、この20年間ではこの1件だけ。しかし当会発足以前の1996～99年にかけては4年間で6件も実施されたとのこと。本県出身の隊員が現地住民とともに生活改善・向上に取り組むために【小さなハートプロジェクト】を活用できるよう、当会としても支援していきます。

**「女性のためのお店と会議室建設プロジェクト」概要**

- ▼期間：2010年3月17日開始～2010年6月11日終了
- ▼プロジェクト参加者：女性グループメンバー（有志）協力者現地NGO（Fondation KOZAP）依頼した建設業者（練瓦職人、配筋工、型枠工）協力隊員
- ▼送金された金額：1,429,648FCFA（約28万円）
- ▼実際に使った費用：1,589,706FCFA（約31万円）
- ▼建設物内容：7.5平方メートルの部屋（お店用）12平方メートルの部屋（会議用）
- ▼場所：協力者NGOのオフィス内敷地
- ▼主な手順
  1. 材料の調達（鉄、セメント、砂、小石など）
  2. 土台を作る
  3. 壁の組み立て
  4. 天井の組み立て
  5. 天井の支えの棒を外し、表面の仕上げ
  6. ドア、窓の取り付け

## 《令和4年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

日時	項目	会場	内容
5月27日	総会	出羽庄内国際村	会場14名、Zoom3名 JICAからの事業説明 帰国報告（竹田洋さん）
6月10～11日	国際村ワールドバザール出展	出羽庄内国際村	協力隊PRほか
1月9日	表敬訪問：中山町 3次隊派遣・鎌上龍成さん	中山町役場	中山町長と懇談 当会理事が同行
1月10日	表敬訪問：鶴岡市 3次隊派遣・清水誠太さん	鶴岡市役所	鶴岡市長と懇談 当会事務局長が同行
1月12日	表敬訪問：山形市 3次隊派遣・松江俊寿さん、 長岡早苗さん	山形市役所	山形市長と懇談 当会理事が同行
1月12日	表敬訪問：山形県庁 3次隊派遣・清野伍壺さん、 鎌上さん、清水さん、 松江さん、長岡さん	山形県庁	山形県みらい企画創造部長と懇談。 当会理事が同行



## 【JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業】 県内2社が採択！

JICAでは開発途上国の課題解決に貢献しようとする日本の民間企業に対して【JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業】という支援制度を設けています。2023年度は全国で68件が採択され、そのうち2件が県内企業でした（東北域内では6件）。

### ●株式会社 渡会電気土木（鶴岡市）

アフリカ地域 電気も水源もない場所で空気から飲料水を作る製水装置のニーズ確認調査

空気製水機（空気中に含まれる水分から飲料水を作り出す機械）を、太陽光で発電した電気で動かすことで、女性や子どもが水汲みのために労働している現状を改善し、SDGs目標6『安全な水とトイレを世界中に』達成に貢献する狙い。

### ●株式会社山本製作所（天童市）

アフリカ地域 循環型乾燥機・石抜機をコアとしたポスト・ハーベスト機械のニーズ確認調査

途上国ではコメの収穫後に適切な乾燥調製ができないことで腐敗が発生し、大量に廃棄せざるを得ない現状。食品生産工程における廃棄を減らすことでより多くの食料を確保し、生産者の収益増と生活基盤の安定、飢餓問題につなげる狙い。

当会ではJICA等と連携して、企業懇談会やセミナーなど県内企業の海外展開を支援してきました。今回採択された渡会電気土木（株）も参加して下さった実績があり、当会の取り組みが採択に繋がる一助になったとすれば嬉しい限りです。

今年度も企業懇談会を開催予定ですので、海外展開に関心のある企業・団体はお気軽にご参加下さい。

採択結果の詳細はJICAホームページを→



## 世界で活躍する 本県出身隊員たち

コロナ禍で一度途絶えてしまった協力隊派遣も、この2年間で少しずつ復活してきました。2024年5月現在、本県出身の10名がアフリカや南米など世界各地に派遣されています（別表参照）。職種はヘルスケア、教育、農業などあらゆる分野に及びます。

山形新聞の不定期連載【世界が舞台】で



は、本県出身隊員たちが現地での活動ぶりを寄稿しており、昨年度は18回も掲載されました。生活習慣や考え方の違いなどに悪戦苦闘しながらも、徐々に現地に溶け込み、ミッション達成のために活動を展開していく様子が伝わってくる感動と迫力のレポートです。

今年度は、早くも1次隊として山形県出身者2名の派遣が決定しています。派遣中の10名を含めて、全員が元気に活動を完遂できるよう祈念しています。地元からも熱く応援していきましょう！

### JICA 海外協力隊 山形県からの派遣状況（2024年5月現在）

氏名	派遣国	職種	派遣年度
土井沙織さん	ボツワナ	障害児・者支援	2022年度1次隊
五十嵐貴昭さん	ルワンダ	コミュニティ開発	2022年度1次隊
吉田奈菜さん	ホンジュラス	小学校教育	2022年度7次隊
松江俊寿さん	タンザニア	コンピュータ技術	2023年度3次隊
長岡早苗さん	ボツワナ	環境教育	2023年度3次隊
鎌上龍成さん	キリバス	公衆衛生	2023年度3次隊
清水誠太さん	パナマ	病虫害対策	2023年度3次隊
清野伍壱さん	パラグアイ	体操競技	2023年度3次隊
山口夢乃さん	パラグアイ	小学校教育	2023年度4次隊
浅井恵子さん	フィジー	保健師	2023年度7次隊

## 地球規模で考えよう！ JICA国際協力中高生エッセイコンテスト

毎年恒例のJICA主催の国際協力中学生・高校生エッセイコンテストが実施され、県内からも表彰されました。

中学生の応募は、置賜地域5校58作品、村山地域4校39作品、庄内、最上からはゼロ。2022年度の222作品から97作品へ57%も減少したことは残念です。

高校生では、鶴岡中央高校からの297作品が突出しています（全校生徒の約半数）。その他、谷地、山形東、鶴岡南、米沢中央の各高校からも応募があり、作品数としては14%減。



学校の授業やマスコミ報道などもあり、子ども達の間で「SDGs」という言葉の認知度は9割を超えている模様です。エッセイコンテストへの応募が、SDGsを踏まえて、地球規模の問題を自分ごととして考えていく良いきっかけになることを願います。

### 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』 入会のご案内

#### 【会費】

- 個人会員=3000円 ●家族会員=1000円（個人会員の家族）
- 学生会員=1000円 ●団体会員=10000円（企業及び団体）

#### 【会員特典】

JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！  
「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、  
年間購読料 5000 円のところ、希望する会員には 2000 円  
の送付手数料のみで 1 年間 12 冊ご提供いたします。

## 2023 年度テーマ

### 【地球に生きる私たち—未来へつなげるために—】

#### ◆JICA東北センター所長賞（中学生の部）

【希望あふれる世界を目指して】

尾形美来さん／米沢市立第六中学校 3 年

#### ◆JICA東北センター所長賞（高校生の部）

【私たちは「平和」という言葉に

逃げてはいないだろうか。】

横山理那子さん／県立山形東高校 2 年

#### ◆佳作（高校生の部）

【つたえあうということ】

高橋ナオさん／私立米沢中央高校 2 年

#### ◆特別学校賞

山形県立鶴岡中央高等学校

2023  
エッセイ  
コンテスト  
表彰

## ワールドバザールに出展

### （①頁からつづき）

当会のブースでは【アムハラ文字※】で自分の名前を書いてみよう】ワークショップや【協力隊の活動写真クイズ】を実施。



庄内在住の協力隊OVによるハイビスカスジュースなどの試飲コーナーでは、異国情緒を感じる味をきっかけに話が弾んでいました。赤ちゃんから高齢者まで幅広く国際交流・国際協力のタネを蒔く貴重な機会になったと思います。

なお、出羽庄内国際村は今年で設立30周年。当会は設立以来「国際交流関係団体」として登録され、様々な事業で協力しています。この6月開催予定のワールドバザールにも庄内エリア在住の協力隊OVと連携して出展予定です。

（※）エチオピアのアムハラ語の表記に用いられる文字

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

## やまがた地球家族 Vol.19

令和6年6月1日発行（第19号） 発行人／酒井忠久



発行／〒 997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 田中方『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL) 090-2743-9895 (田中)

E-mail) info@chikyukazoku.net Website) http://www.chikyukazoku.net/